

こだま会てく・テクの会

山梨方面バスツアー写真集

実施日 2025年9月25日(木)～26日(金)一泊二日

見学場所 25日 奇橋「猿橋」 昇仙峡 戦争遺跡「ロタコ」

26日 舞鶴公園(甲府城址) 信玄公墓所 武田神社 石橋湛山記念館
酒折ワイナリー 桔梗信玄餅工場 釀迦堂遺跡博物館

参加者 20人

奇橋猿橋



猿橋は、山梨県大月市を流れる桂川に架かる特徴的な構造を持つ木製の橋です。山口県の錦帯橋、徳島県のかづら橋(または長野県の木曽の桟)とともに「日本三奇橋」の一つに数えられ、1932年には国の名勝に指定されました。

猿橋の最大の特徴は、橋脚を一切使わない「刎橋(はねばし)」(肘木けた式)と呼ばれる構造です。深い谷間に架かっているため、両岸の岩盤に穴を開け、斜めに突き出した「刎ね木」を四層に重ねることで、橋本体を支えています。

昇仙峡仙娥滝



ゴリラの横顔に見える?
ゴリラが何匹見えますか。

甲府の居酒屋で懇親会(バスツアーでは初めて旅館の外で一杯)



日本酒など、お猪口がどんどん倒れて大いに盛り上がりました。

甲府の夜を満喫



2日目 朝の散歩 甲府城址の石垣



甲府城址の天守台跡(後方は富士山) カラオケ5人組も爽やか



武田神社



武田神社は、武田信玄を祭神とし、1915年(大正4年)に大正天皇が即位した際、信玄に従三位が追贈されたことをきっかけに、山梨県民の間で武田神社を創建したいという機運が高まり、官民一体となって「武田神社奉建会」が設立され、1919年(大正8年)に社殿が完成した。信玄が居館としていた躑躅ヶ崎館の跡地に鎮座しています。

石橋湛山記念館

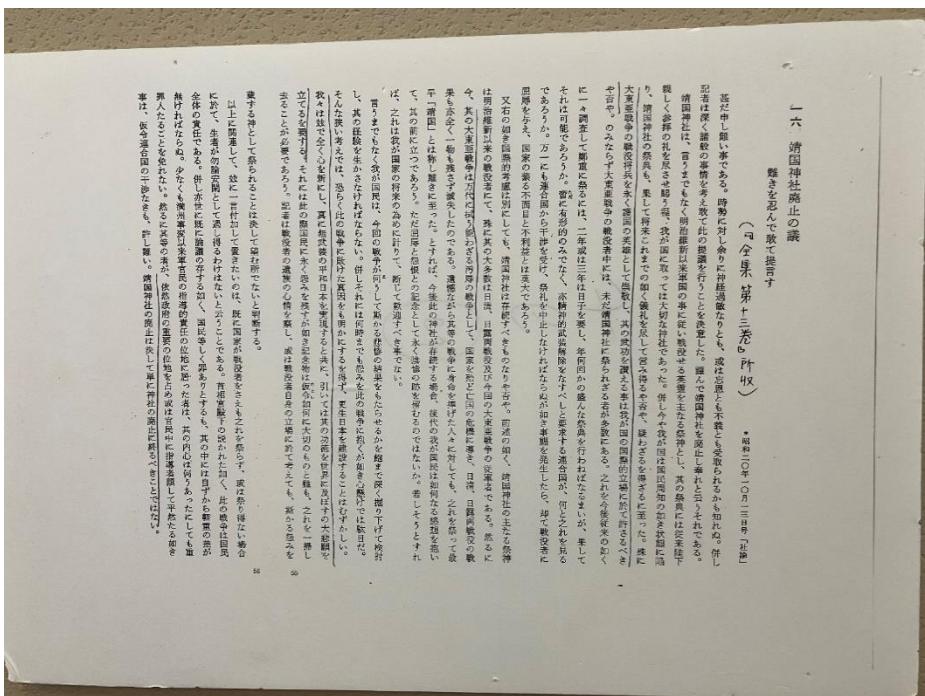


憲法九条の心 自筆の書



憤りを去り
うらみを捨て
すべての人を
愛すれば
みんな幸せ
世界は平和
憲法九条の心 湛山

「靖国神社廃止の議」小論文 東洋経済新報社 1945.10.13



国際的な立場への配慮
大東亜戦争の戦没者を「護國の英雄」として崇敬し、その武功を讃えることが、日本の国際的立場において許されるのかという問い合わせました。特に、連合国が「精神的武装解除」を求めていた中で、靖国神社の存続がどのように見られるかを懸念しました。もし連合国から干渉を受け、祭礼の中止を余儀なくされるような事態になれば、かえって戦没者に屈辱を与えることになると危惧しました。

「怨恨の記念物」となる懸念

靖国神社の主な祭神が明治維新以来の戦没者、特に日清・日露戦争、そして大東亜戦争の従軍者であることに触れています。しかし、大東亜戦争が「万代に拭う能わざる汚辱の戦争」となり、日清・日露戦争の成果も失われた現状では、これら戦没者を祀ることが「靖国」と称しがたい状況にあるとしました。このまま神社が存続すれば、後世の国民が靖国神社に対して屈辱と怨恨の記念として陰惨な感情を抱くのではないかと危惧し、それは日本の将来のために歓迎すべきことではないと指摘しました。

敗因究明の障害

戦争の敗因を深く掘り下げて検討し、その経験を活かすためには、戦争への恨みを持ち続けるような考えでは不十分であると述べました。真に無武装の平和日本を実現するためには、国民に恨みを残すような記念物を一掃する必要があるとし、戦没者やその遺族も、恨みを抱く神として祀られることは決して望んでいないはずだと論じています。

横浜空襲の際にまかれた米軍のビラ



「戦争前は10圓で上等米二斗五升買えた、米軍と戦争している今は闇取引で一升二合しか買えない。諸君の指導者の言う共栄圏の成り行きである」などと書かれています。

甲府空襲の焼夷弾



糸迦堂遺跡博物館(中央道工事で発掘された縄文時代の土偶や甕などを展示)



バスツアー最後の見学場所です。疲れを見せない高齢者たち!!